

広報学生目線で身近に

大津町議会
尚綱大
編集分野で連携協定



大津町議会と尚綱大文化言語学部は5日、議会広報の編集分野で連携する協定を交わした。年4回発行の議会だよりに学生の意見を反映させ、有権者に身近な広報紙を目指す。

これまで同大の学生は大津町のイベントや町づくり活動に参加してきた。今年2月と5月の議会だよりは、学

議会広報の編集で連携する協定書を交わした大津町の大塚龍一郎議長（最前列左）と尚綱大の森正人学長（同右）

生による町議へのインタビュー記事や傍聴リポートを掲載。好評だったため引き続き協力することで合意した。

今後、学生が考えついたテーマの特集記事を掲載したり、議会の専門用語を分かりやすく解説したりして、広報をより軟らかい内容にして活性化させる。

この日は調印式が町議会であり、大塚龍一郎議長と森正人学長が協定書に署名。大塚議長は「若者の新しい感覚で堅苦しい広報に一石を投じてほしい」と期待を寄せた。武田昌憲学部長は「学生を叱咤激励してもらい、社会力を身につけさせた

い」とあいさつした。よりは2月と5月のほ年4回の定例会の審議内容を伝える議会だされる。（横山千尋）